

高岡市教育将来構想検討会議 第3回学校教育小委員会

- ・日 時 平成30年6月25日 17:30～
- ・場 所 高岡市役所 本庁舎803会議室

教育長：[スライドを用いてこれまでの内容の確認]

委員長：協議事項1「学校教育小委員会の検討のまとめ」について、事務局より説明をお願いします。

事務局：[資料1「高岡市教育将来構想検討会議・学校教育小委員会【第1回・第2回】意見の整理」、資料2「学校教育小委員会の検討のまとめ（素案）」を用いて説明]

委員長：資料1について、意見・質問等あればお願いします。

委 員：小中連携の件はデータから見ても必要と感じた。小中連携の方針に進むのであれば、PTAとしても全面的に保護者の方に理解を求めたいと思う。知識面としては学力の向上もあると思うが、中1ギャップや単級での摩擦のない環境の改善について、学力の向上の面だけではない徳と体についてのメリットも強調していけば理解も得られると思う。

委員長：次に、資料2「学校教育小委員会の検討のまとめ（素案）」について、五位中学校区の統合小学校についても含めて、ご意見・質問はありませんか。

委 員：財政との兼ね合いもあるが、早急にまず一步を踏み出すことをしていかなければならない。これがその一步だと思っている。

委 員：小中連携について、英語教育の話もあるので、小学校と中学校が早く連携してやっていけば良いと思っている。賛成である。

委 員：先生方の不安が増えないように、保護者の方に説明する際に精一杯やっていきたいと思う。賛成である。

委 員：石堤小学校の過小規模校、千鳥丘小学校、東五位小学校も規模が小さくなっているの、そういった所が統合してより良い環境で前へ進めていくことは非常に良いことだと思う。なお、既存の施設を利用してはどうかとの話もあったが、実際には既存の大きな1つの学校を使用しても、3つの学校の児童が1つの学校に入ることは難しいと聞いている。そうであれば、新しい学校を準備するしかないと考えている。すぐにはできないかもしれないが、中学校の校舎についても、先を見越して考えながらやっていくことが必要と考える。特に英語教育等の小中連携については、色々な所で叫ばれているし、そういったことをまずやっていかなければならないし、3つ一度に出来なくても、出来るところから統合していくことが良いと思う。また、教員の多忙化のことで部活動について大きな問題になっているが、地域の力を使って解消していくような、この地区として特色ある活動を一緒に考えていければ良いと考える。

委 員：求めたいのはスピード感。10年以上前からこの話が進んでいる中で、やろうと意見が

集約されてきているが、いつ、どのような形でやるのか示してもらいたい。財政の問題があるが、小規模な学校を存続させていることそのものが財政を圧迫している一つの原因ではないかと思う。学校を維持することで、どのような学校であれ年間3～4千万円かかっていることがあるので、やはりスピード感を持って整理していくことが大事。その上で、五位中学校区が小中一貫教育のモデルケースになれば、他の学校も追随するような形をとれるのではないか。教育長からも、小中一貫教育は経験を積んでいけばデメリットも解消されるといった話があったが、経験を積んでいくことが非常に重要と考える。

委員長：五位中学校区小学校の統合について、今一度意見はあるか。

委員：スクールバスの運行について、無償化で進むと、これが財政の圧迫になるのではないかという懸念がある。

教育長：委員より、知だけではなく、といった意見があったが、我々も知・徳・体のバランスの取れた成長を図っていくことが基本と考えるので、9年間というスケールの中で連続して子ども達の成長を応援していく、例えば複数の教員が子どもを見ることができる。今までは小学校の教員だけだったものが、中学校の教員も一緒に子どもをみることができるので、いろいろな関わり方ができると考える。そのなかで、心を伸ばす機会を作っていきたいし、スポーツ面においても、小中同じ指導者であれば、9年間みてもらえるので、その子の個性を分かって伸ばしていけるような指導が可能になってくる。また、地域というのが大きなポイントになってくる。今は学校だけで教育は成り立たないので、学校・家庭・地域の総合力として、未来を担う子どもを育てていける仕組み作りをさせていただきたい。義務教育は機会均等、子どもに同じようなチャンスを作っていくことが大きな目標なので、いろんな教育機会が出来てきているが、総合力で子どもをフォローしていった方が、一人ひとりの教員の負担も減るし、それぞれの特徴を活かして育てることができるので、子どもの才能を伸ばしていく仕組みを我々は作らせていただきたい。お金も人も限られているので、それを最大限に活かす連携・一貫を進めさせていただきたいと思う。

委員長：地域連携の話があったが、企業との連携等はこれから先必要と考える。いずれは故郷に戻ってきてほしい、という要望もあるので、小さい時からそういう関係を築けば、将来の印象にかなり強い影響を与える。そういったものの整理をしていただきたい。

教育長：学校とPTAが一つの柱となり、そこに地域・企業が支えていただく。子ども達が職業体験等で地元の企業にお世話になり、地元の企業で頑張ろうという流れも出ている。高岡ではものづくりデザイン科があって、高岡の文化に触れる機会がある。そういった仕組みがたくさんあり、応援していただいているので、我々も仲立ちさせていただき、校長、PTA等と連携を取って整理を進めていきたいと思う。

委員：こういった良い形で進めていくことは良いことだと思うが、学校現場の先生のことを思うと、小中連携・一貫といったところの先進例を参考にしていかなければ、無か

ら有を生むというのは大変なことだと思う。市内の先生方で先進校や先進例の研修等を行っているか。

事務局：京都市が市をあげてやっており、先進例となる。国吉小・中で進めているが、そこから視察に行くことになっている。五位中学校区のことだが、6月11日に関係の五位中学校長及び3校長が集まって、これからどういったことをしていけば良いのか情報交換を行ったり、計画を立てたりしている。英語については、まず東五位小と五位中である。また、学校運営についてもこれから色々なことで連携していけば良い。小中連携はもちろんのこと、小小連携という形でも出来ることはないかこれから整理していき、やれることからやるということで準備している。たとえば学力のことについては、夏休み期間中に小中の教員が集まって、合同で研修をする機会を設けることにしている。行事については、地域のクリーン作戦等を一緒にやっていくことや、ノーメディアの運動を一緒にやっていくこと、ネットトラブルの防止についても共同で進めていく等、英語だけでなく出前授業や校外学習を進めていけばいいのではないかという案もでて、これからやっていこうと確認したところである。この中からできることを順次進めていこうと思う。

委員：小小連携や、中1ギャップについて話していたので、情報提供であるが、五位中学校区、芳野中学校区の小学校の6年生向けに一緒に食事を作ってスポーツやゲームをしたり、保護者同士で顔見知りになる、ということを企画している。

委員：教員の多忙化が叫ばれているが、新しい取り組みについてもやることはやらなければいけない。ただし、会議等増えていくので、今までしていた持ち込み行事等の全てはできない。すべて良いものではあるが、全部は出来ないので、教育委員会等で交通整理していかなければならない。

委員：アメリカのインディアナ州でアメリカ人に日本語を教える教員と話をする機会があったが、5年間教えると日常会話に不便はないとの話だった。私たちは英語を6年間学んでも会話もできない。やはり、ネイティブの専門家がコミュニケーションを重視して教えているから会話ができるようになる。日本では小学校の先生が英語を教えるが、それではなかなか話せるようにはならないとのこと。切実に小中連携が進めばよいと思う。

事務局：今は英語の乗り入れ授業を2つの小学校でやっているが、児童にも好評で、中学校の英語教員にとっても、これまで中学生だけをみていて見えなかったことが見えてくるようになったと聞いている。英語専科教員の増員を要望していきたいと思う。

委員：望ましい学校の規模について、全ての学校について適正な学校規模を目指していく方向でやっていくのか。

教育長：皆さまには今後10年間を見据えた議論をお願いしている。その方向性について叩き台をこの委員会を出していただきたいと考えている。その際には資料を準備させていただくので参考にさせていただいて、今後の動向や現状等お伝えしていきたいと思うので、今後1

0年まずはこういったことができるのか視野に入れて検討・議論していただきたい。

委員：委員より、スクールバスの費用の話があったが、対象は石堤小になると思うが、学校は遠くなり、費用も払うといった話になればなかなか理解を得るのは難しいと思う。義務教育なので、そこは考えなければならない。

事務局：福岡地区については、スクールバスとして一路線あり、過去に加越能バスが数路線あったが公営バスという形になった。基本的には一般の方が乗るバスなので100円かかるが、この児童負担については市の教育予算で負担する形をとっていると思う。

委員：砺波地区においてもスクールバスを運行しているところがあるが無償である。本校では約4割の児童がスクールバスを利用している。大雪の際の休校など、急な変更に対応できないところがスクールバスの弱点だと思う。

委員長：今頂いた意見を踏まえ、次の高岡市教育将来構想検討会議で報告するとのことだが、事務局としては今後どのように進めるか。

事務局：今後7月の教育将来構想検討会議に向けて、小委員会の意見の報告をまとめさせていただきたいと思う。委員の方に確認していただく中で、今回提示した素案に手が加わったものでまとめさせていただき、次の7月の本体会議に報告という手順を取らせていただきたいと思います。

委員長：今言った進め方でよろしいか。

一同：異議なし。

委員長：オブザーバーの方は何か意見等はあるか。

オブザーバー：私は統合小学校に大賛成であるが、新しい場所に小学校を建てることには反対である。それは、既存の小学校がまだ使えるからである。福岡小学校を建てた際に、皆さんいくらかかったかご存知か。この会議は中身が非常に濃く統合小学校をやるという話は賛成であるが、新しい場所に小学校を作ることになっており、その用地取得費はこの会議には出ておらず、新しい小学校をいくらかで作るか、お金の話がなかったのに、新しい小学校を作ります、という話になるのは早急ではないか、と思っている。

オブザーバー：少子化のなかで小中一貫の話が出てきていると思っている。いろんな地域で同じようなことをしていると思うが、それぞれの地域の事情があり統合が進んでいると思う。高岡市として、将来を見据えた統合の在り方を考えてほしい。少子化ではなく、将来若い人がたくさん住むことになった際の学校の在り方を考えてほしい。

以上